



### 露地野菜 ●晩秋播きキャベツの定植

- ・定植期が遅れると地温の低下により活着が悪く、越冬株率が劣ります。遅くとも11月中旬までの温暖な日に定植して下さい。
- ・定植直後に除草剤「トレファノサイド乳剤」を散布しておく、春雑草の繁茂を防止できます。100㎡（1畝）当たり原液20～30ccを10リットル程度の水に希釈して散布して下さい。なお、除草剤は降雨直後で土の表面が湿っている時の方が、除草効果が高くなります。薬剤散布後は畝面に足を入れたり、手で土の表面を触るとその部分は除草剤の被膜層が崩れて除草効果がなくなりますから、散布後5～7日はできる限りそのままの状態を保って下さい。

#### ●タマネギの定植

- ・植付け後の生育のバラつきを防止するために定植は11月上旬までに行ってください。定植にあたっては、根を乾かさずに、大きさが揃った苗を植付けて下さい。なお、植付け後2週間程度経過してから除草剤を散布すれば、春雑草の繁茂を防止できます。ナブ乳剤、トレファノサイド粒剤、クレマート乳剤、クロロICP乳剤等が使用可能です。除草剤散布後は前述のキャベツ同様、畝面の土を触らず5～7日はそのままの状態を保って下さい。

#### ●葉菜類や根菜類の病害虫防除

- ・引き続き、秋播き葉菜類や根菜類はヨトウムシ類等が多発しています。常時、圃場を観察し発生時にジェイエース水溶剤の1000～1500倍液やアフーム乳剤の2000倍液を散布して下さい。
- ・軟腐病、べと病等の多発が懸念されます。常時、畑を観察し発生がみられたらZボルドーの500倍液を散布して下さい。なお、これらの病害の病徴は本年9、10月号を参照して下さい。

#### ●一寸ソラマメの管理

- ・無マルチ栽培では、11月下旬～12月上旬にそさい5号を5g/株を施用し、草勢維持を図って下さい。
- ・今月下旬までに寒害防止のため、不織布等をベタ掛けまたはトンネル被覆し、積雪前に湿害防止のために排水溝の整備を行って下さい。

#### ●イチゴの管理

- ・11月中旬頃、親株から少し離れたところにそさい5号を5g/株を施用し、軽く土に混ぜてください。根の伸びる先に施用を行うのがポイントです。このとき、肥料のやり過ぎには十分注意して下さい。

### 施設栽培における軟弱野菜類の管理

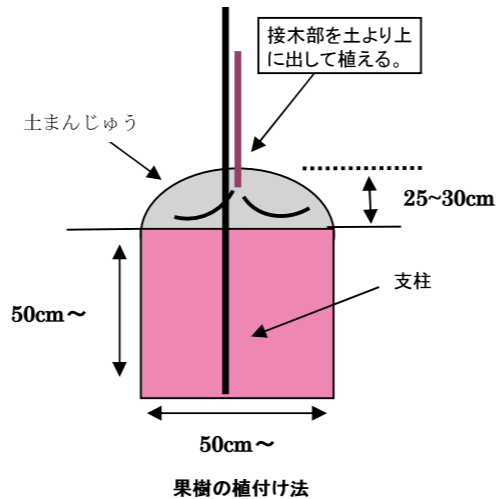
- ・今月の後半になると、ハウス内は軟弱野菜類の生育適温を下回るとともに過湿等による病害の発生が懸念されますから、気温や土壌水分の変化に対応した温度管理や土壌管理を行い、生育遅延や品質の低下防止に努めて下さい。
- ・ハウレンソウ、コマツナ等を11月に播種する場合は、低温のため生育期間が長くなりやすいので、ハウスの保温に努め、生育促進に努めて下さい。なお、べと病等の予防のためべと病抵抗性品種を用いるとともに、①厚播きを避け、②発芽後の灌水は控えて過湿にならないよう注意して下さい。
- ・軟弱野菜類の中で、特にコカブは低温で葉が伸びにくく長期間低温に晒されると、収穫時の荷姿が悪くなるので、必ず内張りカーテンを設置してハウスの保温に努めて下さい。

### 落葉果樹の植付け

果樹類は一旦植付けると、そこから移動することは困難です。したがって将来多くの果実を生産するためには、最初の植付けが最も重要な作業になります。落葉果樹は下図を参照し、根が活動を始める前の11月から翌年3月上旬までに植付け予定地の土の表面が乾いている日に植付けて下さい（ミカン、ビワ等常緑果樹は翌年の3月下旬～4月上旬が植付け適期になります）。

#### ○植付け手順（右図）

- ①植穴掘り＝最低縦横、深さ50cmの穴を掘る。
- ②有機資材等の投入＝掘り上げた土に堆肥2kgと石灰および化成肥料50～100gを混合する。
- ③土を埋め戻す。
- ④土まんじゅう＝肥料分の少ない土を高さ25～30cmに盛り上げる。
- ⑤植付け＝④の土に根を横に広げ、根と土に隙間（空間）が出来ないように乾いた土を入れる。
- ⑥支柱を立てて、苗を8の字に誘引結束し、たっぷり灌水する。



## 水稻

### ★平成30年産米の倉前検査情報(9月30日現在)

8月及び9月分の倉前検査結果を掲載します。

下の図はハナエチゼン、コシヒカリ、あきさかりそれぞれの等級比率及び格落理由です。品種ごとの1等比率はハナエチゼン80.8%、コシヒカリ81.5%、あきさかり85.0%となりました。等級の格落理由はハナエチゼンについてはカメムシによる斑点米や胴割が、コシヒカリについては心白粒（乳白粒）が、あきさかりについては斑点米や粉混入がそれぞれ目立つ結果となりました。

次号では10月分を含めた検査結果をお届けします。

